

色を行い、その存在様式を検討した。

(結語) 以上より、ゼラチンスポンジ存在下で増殖してきた退縮型QR-32癌細胞の悪性化の進展は、次硝酸ビス

マス経口投与およびPSK腹腔内投与により誘導される内因性活性酵素scavengerにより抑制されることが示唆された。

## 5. 口腔癌樹立細胞株を用いた口腔癌の浸潤・転移メカニズムに関する研究

口腔外科学第一講座

小西 亮

癌の予防、治療は飛躍的な進歩を遂げている一方、再発や転移についての有効な予防法や二次療法の確立はなされていない。したがって、癌の転移機構を解明することが、癌の浸潤・転移に対する有効な予防および治療法に結びつくと考えられる。

最近、細胞生物学的研究のめざましい発展に伴い、転移の全体像が明らかになりつつある。その一つに癌細胞の浸潤・転移に際しパラクライン的サイトカインが悪性形質の獲得に重要な役割をはたしていることが示唆され

ている。我々の教室でも口腔扁平上皮癌細胞が産生する種々のサイトカインをスクリーニングし、血管内皮細胞によるin vitro invasion assayを用いて浸潤能の検討を行っている。そこで、癌細胞が産生するTGF- $\beta_1$ と浸潤能の関係を検討したところ、TGF- $\beta_1$ のオートクリン作用によって細胞外マトリクス分解酵素の産生を亢進し、その結果浸潤能が促進していることを明らかにしたので報告した。

## 6. 下顎逆生理伏智歯の2例

口腔外科学第二講座

原田 広文

今回、我々は下顎逆生理伏智歯の2例を経験したのでその概要と、本学歯学部学生の下顎智歯1028本を対象として下顎逆生理伏智歯の頻度、および歯軸傾斜角度、萌出余地、下顎管との関係について検討し、若干の考察を加えて報告した。

症例1：22才、男性

初診：平成4年2月10日

X線所見：7|咬合面は6|歯頸部に位置し、8|の歯冠は7|の遠心部に向かい、逆生を示していた。

臨床診断：右側下顎逆生理伏智歯

症例2：18才、男性

初診：平成3年4月18日

主訴：8|の自発痛

X線所見：7|遠心に歯冠を下方に向けて8|は逆生を示していた。

臨床診断：左側下顎逆生理伏智歯

統計的観察の結果は、歯軸傾斜角度が逆生を示したものは3.6%と非常に少なく、今回の2例の歯軸傾斜角度は症例1が116度、症例2が160度であり、逆生理伏智歯のなかでも、症例2のような強い傾斜を示したものは稀であった。逆生理伏智歯の萌出余地は、クラス2およびクラス3が多いが、今回の症例1ではクラス1、症例2ではクラス2であった。下顎管と逆生理伏智歯との関係の報告は少なく、今回の症例1、2共に歯冠の一部と下顎管が近接もしくは重複していた。